特集　沼田城発掘調査

本丸堀の構造を探る

沼田公園に眠る沼田城跡は、大正時代以降の公園整備により改変を受け、長らく謎のままでした。令和元年度から始まった発掘調査で、沼田城の全体像が徐々に解明されていきます

沼田城の構造や歴史などを調査し、過去の文化状況を明らかにするため、市教育委員会は「沼田市史跡沼田城跡調査・保存整備事業」を進めています。この事業は平成４年に計画された「沼田公園長期整備構想」の一環として実施し、期間は平成30年度から令和５年度までの６年です。城郭の専門家で構成される専門部会の指導、議論に基づいて調査をしています。令和元年度には本丸内を発掘調査し、大正時代以降整備された公園の下に、真田氏時代の地面が保存されていることが明らかになりました。

今年度の発掘調査の目的は、真田氏が整備した沼田城本丸を区画する本丸堀の位置と規模、構造などを確認することで、調査は６月から９月にかけて実施しています。調査位置は現在の地形や江戸時代の絵図面、過去の研究などをもとに予想される旧テニスコート内に、トレンチと呼ばれる溝を掘り、試掘調査区を設定しました。（３ページ地図参照）

調査序盤では、本丸堀の南側の境目となるラインを確認。中盤に差し掛かった現在は、トレンチ１の北端部分の本丸堀北側を調査しています。この辺りは本丸の南東隅に当たり、絵図面では櫓が立っていたことが分かります。本丸から堀の中へかけて瓦が多数出土しており、櫓に葺かれていた物が堀の中へ落ちた、あるいは投げ込まれたと考えられます。調査中盤から終盤にかけては、本丸堀の中を掘り、堀の深さや底面の状況などを確認する予定です。

沼田公園は、本市出身で土木技術者の久米民之助（１８６１～１９３１年）によって整備されましたが、発掘調査によりその状況も明らかになりつつあります。本丸堀は多量の土で埋め尽くされ、その中から江戸時代末期から近代の陶磁器が出土